

# ひかりのこ

6月園便り

認定こども園  
聖ミエル幼稚園  
2022年5月25日

## 月主題：探ってみる

ゴールデンウィークが過ぎ、子どもたちの園での生活が動き出しました。乳児さんも年少さんも幼稚園の生活に慣れ、毎日を楽しそうに過ごしています。一方、コロナ感染については、幼稚園では特にクラスター等もなく大丈夫なのですが、おなかの風邪や熱の出る風邪、花粉症などのアレルギー鼻炎でお休みするお子さんや職員が増えています。

そんなこともあり、先日の土曜日、保育に入る予定だった職員がお休みし、ピンチヒッターで園長が保育に入りました。当日は、幼児さん1名、乳児さん2名。幼児さんと乳児さんは平日一緒に生活することがあまりないのですが、この日は、3名を園長ともう一人の職員で保育することになりました。

みんなで近くの公園に行ったのですが、幼児さんがとても優しく、乳児さんとお手々をつないでくれました。乳児さんも優しいお兄さんに安心した様子。とても穏やかなひと時でした。

昔は近所の子どもたちが年齢に関係なく空き地に集まり、缶蹴りをしたり鬼ごっこをしたりしたものでした。その中で、自然と近所のお兄さんお姉さんから社会性を身に着けていたように思います。今はなかなかそんな子どもたちの姿を見ることはありません。

今年度から立ち上げた幼保連携型認定こども園ですが、0歳から5歳の子どもが共に生活することにより、子どもたちに様々な良いことが生まれそうです。

今は幼稚園の外側の工事が進んでいます。園庭が完成するのは、8月くらいでしょうか。

園庭ができれば、ますます乳児さんと幼児さんの交流が生まれるのではないかと、期待しています。

園長 渡部 良子

## キリスト教保育

### 「ピエタ」

カトリック教会の「総本山」であるバチカンに、サンピエトロ大聖堂があります。中に入っていくと、ミケランジェロの作による「ピエタ」という彫刻があります。十字架につけられたイエス様が降ろされ、その亡骸を抱き留める母マリアの像です。ピエタとは、哀れみ、慈しみというイタリア語ですが、多くの作品として残されている、イエス様を抱くマリア像の総称でもあります。

マリアは、キリスト教の歴史の中で、人々に熱烈に愛され、特にカトリック教会では信仰の対象でもあります。重い病気を患っている人、苦難の中に生きている人々は、心の中でマリアに抱かれる自分を想像して、生きる力を取り戻すのです。聖公会では、マリアそのものが信仰の対象ではありませんが、特別な人であることは同じです。私も自分の部屋にはマリア像を飾っていて、自分の心が毛羽立っているような時には、静かな表情のマリア様を見て心が落ち着くことが度々あります。マリアは神の優しさを体現する存在です。

皮肉なことに、ウクライナでロシア軍の集中攻撃を受けているマリウポリという町は、マリアの町という意味です。もとは、風光明媚で美しい町だったといえます。多くの市民が残酷に命を絶たれているマリアの町が、一刻も早く平和を取り戻すことを祈ります。傷ついた人々に癒やしと、哀れみと慈しみが与えられることを願ってやみません。

チャプレン 司祭 下澤 昌